



各位

会社名 M e d i c i N o v a , I n c

代表者名 代表取締役社長兼 CEO 岩城 裕一

(コード番号：4875 東証スタンダード)

(ティッカーシンボル：MNOV NASDAQ グローバル)

問合せ先 取締役兼シニアバイスプレジデント 松田 和子
最高医学責任者（CMO）東京事務所代表

電話：03-5532-5912

E-Mail : infojapan@medicinova.com

2026 年 9 月 8 日 米国 ラ・ホイヤ発 – メディシノバ (MediciNova, Inc.) (米国カリフォルニア州
ラ・ホイヤ、代表取締役社長兼 CEO：岩城裕一) (以下「当社」といいます。) は、9 月に開催される
2 つの投資家向けカンファレンスに参加することをお知らせします。

下記のカンファレンスには、当社代表取締役社長兼 CEO の岩城裕一及び当社 CBO（Chief Business Officer）の David H. Crean が参加し、投資家とのコミュニケーションを予定しております。

- H.C. Wainwright 社主催 「第 28 回 Annual Global Investment Conference」

開催期間：9月14日～9月16日

開催場所：Lotte New York Palace Hotel

バーチャル・プレゼンテーションは、米国東部時間 9 月 11 日（金）午前 7 時よりオンデマンドで視聴可能となる予定です。またカンファレンス期間中に投資家との個別面談を行う予定です。

- ROTH 社主催 「第 5 回 Annual Healthcare Opportunities Conference」

開催期間：9月29日

開催場所：The Metropolitan Club (New York City)

米国東部時間午前 10 時より開催される「Frontiers in Neuroscience」と題したパネルディスカッションに参加する予定です。加えて、投資家との個別面談及び少人数グループ面談も実施する予定です。

当社代表取締役社長兼 CEO の岩城裕一は次のように述べています。

「これらのカンファレンスへの参加は、当社の進捗に関心をお寄せいただいているすべてのステークホルダーの皆様と、継続的かつ丁寧な対話を重ねていくという当社の姿勢を示すものです。糖尿病性脂質異常を伴う非アルコール性脂肪肝疾患^{*1}を対象とするフェーズ 2 臨床試験(MN-001-NATG202)については、本年 9 月末までにトップラインデータを公表する見込みです。また、当社の主要プログラムである MN-166^{*2}の ALS^{*3}を対象とするフェーズ 2b/3 臨床試験(COMBAT-ALS)については、2026 年末までに二重盲検フェーズのトップラインデータを発表する予定です。

当社は、これらの主要なマイルストーンに向けて引き続き着実に取り組むとともに、約 2,540 万米ドル（約 40 億円）（※2026 年 6 月 30 日現在）の現金残高を慎重に管理しながら、事業計画を確実に遂行してまいります。

今後も、企業価値及び株主価値の向上につながる進捗を適時お示しし、今回の各カンファレンスならびに今後の機会を通じて、投資家の皆様との建設的な対話を重ねてまいりたいと考えております。」

以 上

***1 NAFLD（非アルコール性脂肪性肝疾患）／NASH（非アルコール性脂肪性肝炎）について**

NAFLD（非アルコール性脂肪性肝疾患）は、肝細胞に脂肪が蓄積するだけの単純性脂肪肝と、炎症や肝細胞へのダメージを伴う NASH（非アルコール性脂肪性肝炎）に大きく分けられます。NASH（非アルコール性脂肪性肝炎）とは、近年メタボリックシンドロームの増加により認識されるようになった、肝臓に脂肪が貯まり、炎症・肝組織へのダメージが症状としてみられる肝疾患です。発生原因にアルコールが含まれないにも拘わらずアルコール性肝障害に類似した進展を示すことが特徴です。米国国立消化器病情報クリアリングハウスの統計によれば、アメリカにおける NASH の有病率は 2～5%、これに加えて 10～20% のアメリカ人が脂肪肝であると言われています。発生に至る機序はまだはっきりとは判っておりませんが、肥満の中年に有病率が高く、NASH 患者には、血中脂質濃度が高く、糖尿病、またはその予備軍であることが多く見られます。NASH が進行するとしばしば肝硬変を引き起こすことがあります。現時点では、肝不全を伴う肝硬変には薬物による治療法はなく、治療は最終的には肝臓移植に頼らざるを得ません。

***2 MN-166（イブジラスト）について**

MN-166 はファースト・イン・クラスの経口摂取可能な小分子化合物で、マクロファージ遊走阻止因子（MIF）阻害剤、ホスホジエステラーゼ-4 及び-10 の阻害剤で、炎症促進作用のあるサイトカイン、IL-18、TNF- α 、IL-6 などを阻害する働きを有しており、また、反炎症性のサイトカイン IL-10、神経栄養因子及びグリア細胞由来神経栄養因子を活性化する働きも認められています。グリア細胞の活性化を減衰し、ある種の神経症状を緩和することがわかっています。前臨床研究および臨床研究において抗神経炎症作用及び神経保護作用を有することが確認されており、これらの作用が MN-166 の神経変性疾患（進行型多発性硬化症、ALS など）、各種依存症、慢性神経因性疼痛などに対する治療効果の根拠と考えられています。当社は、進行型多発性硬化症及び ALS、薬物依存症をはじめとする多様な神経系疾患を適応とする新薬として開発しており、進行型多発性硬化症、ALS、薬物依存などを含むさまざまな疾患治療をカバーする特許のポートフォリオを有しております。

***3 ALS（筋萎縮性側索硬化症）について**

ALS（筋萎縮性側索硬化症）、またの名をルー・ゲーリック病（著名な大リーグ野球選手が罹患したこと）と呼ばれるこの疾病は、脳及び脊椎の神経細胞にダメージを及ぼす進行性の神経変性疾患です。このダメージにより特定の筋肉への指令が届かなくなり、筋肉が萎縮し弱まっていきます。その結果、随意運動が不自由となり、病状末期には全身の運動麻痺に至り人工呼吸器などの補助が必要になります。診断されてからの生存期間は通常 2 年から 5 年と言われています。米国 ALS 協会によると、現在米国にはおよそ 16,000 人の ALS 患者がおり、毎年約 5,000 人が新たに診断されています。

メディシノバについて

メディシノバ（MediciNova, Inc.）は、米国を拠点とする臨床開発ステージにあるバイオ医薬品開発企業です。炎症性疾患、神経変性疾患、癌などの様々な疾患領域において、開発後期ステージの広範なパイプラインを開発しています。

主要な開発品である 2 つの化合物、MN-166（イブジラスト）と MN-001（タイペルカスト）は複数の作用機序を持つ低分子化合物です。動物モデルスタディで様々な効果が確認されているほか、これまでの臨床経験において高い安全性プロファイルを有しています。

MN-166（イブジラスト）は、現在、筋萎縮性側索硬化症（ALS）、頸椎症性脊髄症（DCM）で臨床第Ⅲ相（フェーズ 3）段階の治験が進められています。他にも膠芽腫（グリオブラストーマ）及び嗜好品依存症の治療薬候補品として臨床第Ⅱ相（フェーズ 2）段階にあります。

MN-001（タイペルカスト）は、糖尿病による脂質異常症・非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）を対象に、臨床第Ⅱ相（フェーズ 2）段階の治験が進められています。

当社は、欧米政府や公的機関からの研究資金助成を受け、多くの医師主導型臨床治験を実施してきた強固な実績を有しています。

当社詳細につきましては <https://medicinova.jp/> をご覧下さい。本社所在地はアメリカ合衆国カリフォルニア州ラ・ホイヤ、スイート 300、エグゼクティブ・スクエア 4275（電話 1-858-373-1500）です。

注意事項

このプレスリリースには、1995 年米国民事証券訴訟改革法（The Private Securities Litigation Reform Act of 1995）

に規定される意味での「将来の見通しに関する記述」が含まれている可能性があります。これらの記述には、MN-166、MN-001、MN-221 及び MN-029 の治療法の将来における開発や効果に関する記述などが含まれます。これらの「将来の見通しに関する記述」には、そこに記述され、示されたものとは大きく違う結果または事象に導く多数のリスクまたは不確定要素が含まれます。かかる要素としては、MN-166、MN-001、MN-221、または MN-029 を開発するための提携先または助成金を得る可能性、当社の事業または臨床開発を行うために十分な資金を調達する可能性、将来の臨床治験のタイミング、費用、計画など、臨床治験、製品開発および商品化に付随するリスクや不確定要素、FDA に対して書類を提出するタイミング、臨床開発及び商品化のリスク、現段階の臨床治験の結果が必ずしもその後の製品開発の行方を確定するものではない可能性、当局の承認取得の遅延または失敗の可能性、臨床治験の資金を第三者機関に頼ることによるリスク、商品候補に対する知的財産権に関するリスク及びかかる権利の防御・執行能力に関するリスク、製品候補の臨床治験または製造を依頼している第三者機関が当社の期待通りに履行できない可能性、さらに臨床治験の開始、患者登録、完了または解析、臨床治験計画の妥当性または実施に関連する重大な問題、規制当局への書類提出のタイミング、第三者機関との提携またはタイムリーな資金調達の可否などに起因する遅延及び費用増大に加え、当社が米国証券取引委員会に提出した 2025 年 12 月期の Form10K 及びその後の 10Q、8K など届出書に記載されているものも含め、しかしそれに限定されないその他のリスクや不確定要素があります。したがって、「将来の見通しに関する記述」はその時点における当社の状況を述べているにとどまり、実際の結果または成り行きは、必ずしも予想通りにはならない可能性があることにご留意下さい。また当社には、この記述に関して、情報の修正または更新を行う義務はありません。